

IV 事業概要

1 学芸事業

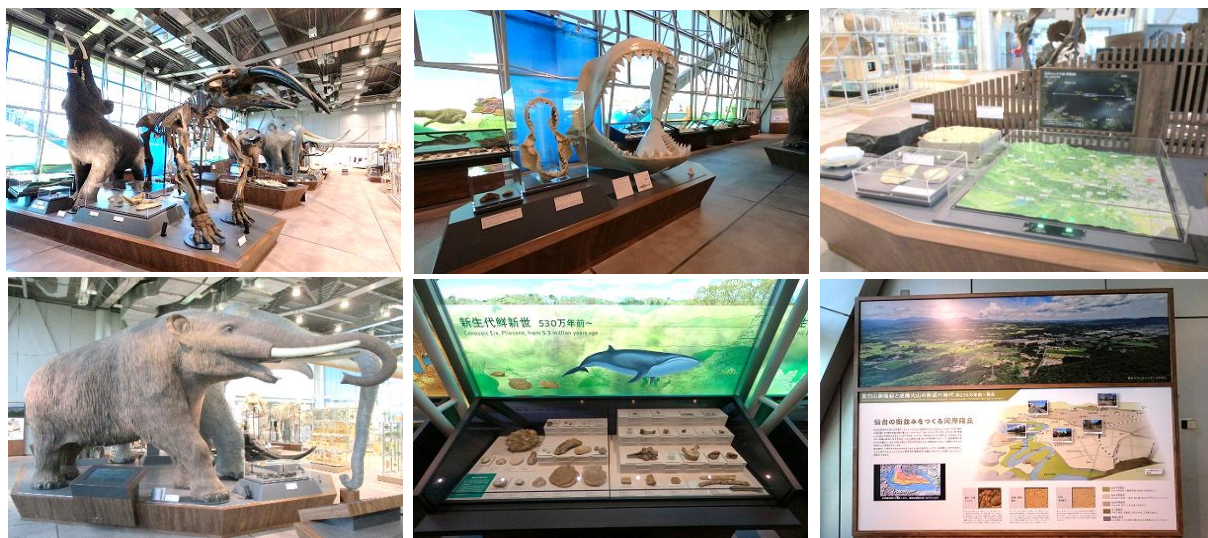
【1 展示関係】

(1) 常設展

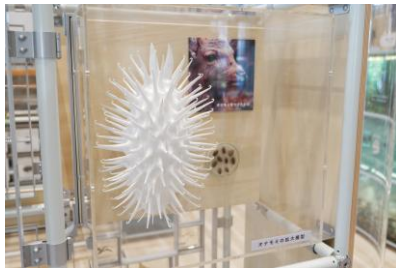
① 自然史系展示「宮城・仙台の自然」

「宮城・仙台の自然」は、「大地の記憶」，「見方の森」，「自然への入口」の3つのエリアで構成されている。

「大地の記憶」では、宮城県内で産出した化石を中心に古生代から新生代まで年代別の展示構成としている。展示室入口には、大型モニターを設置し、仙台の大地の記憶を約5分にまとめたクロニクル映像で、来館者が日本列島の成り立ちから仙台の大地の成り立ちまで分かるように解説している。約500万年前に仙台に生息していたと考えられている「センダイゾウ」をはじめ、9体の象の全身骨格や生体復元模型の迫力のある展示が目玉である。化石は年代別に9台の展示ケースで年代別に展示している。展示ケース内の主な化石としては、南部北上帯から産出した三葉虫の化石、気仙沼から産出したヘリコプリオン（複製）、南三陸町で産出した囊頭類やベレムナイト（複製）、他にもクジラやサメ、アンモナイトなどがある。仙台で産出したサメの歯化石には、大型の古代サメ「ムカシオオホホジロザメ」のものもあり、その顎の復元を展示している。中生代前期三畳紀に生息していたウタツギョリュウの他、ホソウラギョリュウ、クダノハマギョリュウの3種類の魚竜化石（複製）を展示している。「ウタツギョリュウ」は、日本地質学会が定めた宮城県の化石であり、他に県の岩石「スレート」、県の鉱物「箕岳、涌谷の砂金」も展示している。



「見方の森」では、カテゴリー毎に標本や剥製、模型等を展示している。解説の他、観察のきっかけとなる言葉がちりばめられており、自然の事物現象の見方が分かる空間となっている。「果実・種子」は、散布方法で分類して標本を展示している他、オナモミの拡大模型や風散布種子の模型を実際に飛ばすことができる装置を設置している。「巣」では、階段を設けて、高低差を生かして巣を配置しており、階段下には、地面下のアズマモグラなどを展示している。階段上では、鳥の巣を多数配置し、巣にいる雛の様子が分かる映像展示も行っており、空間を生かしたつくりとなっている。「繭・卵」では、メダカの卵がふ化するまでどのように変化しているのか見ることができる映像や、カエルの卵を模型で展示し、発生について解説するなど、小中学生の学習にも生かせる内容となっている。この他、岩石に直接手で触れる、偏光板を回して岩石のつくりをみる、キノコの亚克力標本を手にとって360度観察するなど、実際に触れることができる展示を数多く展開している。また、鳥やキツネなどの動物の鳴き声や、風、川の音など環境音を聞きながら観察をすることができる空間となっている。



「自然への入口」では、宮城・仙台の山地、丘陵地、沿岸部をジオラマで再現したエリアである。宮城・仙台で見られる樹木や植物、物たちの様子をリアルに再現している。各エリアには、ジオラマモニターがあり、それぞれのエリアで生息する動植物の情報を季節毎に見ることができるになっている。床面には、広瀬川の全景を描いた床地図があり、ジオラマとリンクするような配置となっている。河口以降は深海エリアとなっており、深海の生物を模型と映像で紹介している。また、広瀬川の地図に合わせて見方の森に、上流、中流、下流の魚や鳥、動植物の標本や剥製等がある。沿岸部と丘陵地のジオラマの間には、広瀬川を下流から上流に向かって飛んで行くような体験ができる「スカイアドベンチャー」を展開している。



IV 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(1) 常設展

② 科学の探究

科学の探究は「サイエンスユニット」，「物質のなりたち」，「波・音・光」，「電気と磁気」，「運動と力」，「エネルギーの利用」，「物質の性質」の7つのテーマに分かれている。

「サイエンスユニット」では，科学の探究の導入として「体験の手がかり」等にふれる展示エリアである。身の回りにあるものや現象を比較したり，関係性を表すために使われたりする科学の要素（「重さ」「長さ」「面積」「体積」「時間」）を取り上げている。身近な話題をもとに感覚的に分かっていそうなものなどを題材にして，理科の見方・考え方を身につける準備としての場となっている。



サイエンスユニット

「物質のなりたち」は，化学の基礎である周期表や分子構造がどのようなものか，どのようにできているのかなどを実物や映像，体験などを通して分かりやすく解説するエリアになっている。外側に2種類の周期表（実物標本周期表／電子配置周期表），内側にミクロの世界を設置している。



実物標本周期表

「波・音・光」は，波，音，光の性質や，それらが関わる身近な現象の原理を体験できる装置を設置している。波が干渉する様子を観察したり，実際にドップラー効果を体験したりできる。その他に，縦波・横波，音の反射，音速，光ファイバーの原理，光の反射などが設置されており，物理学の基礎を学ぶことができる。



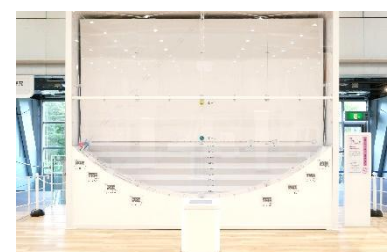
音速

「電気と磁気」は，電気と磁気に関する原理・法則を分かりやすく体験することができる装置を設置している。回路にいろいろな抵抗を組み込み，物質によって電流の流れにくさ（抵抗）が違うことが確認できる装置やフレミングの左手の法則が確認できる装置がある。他には，電気を見る，電波の原理，電磁誘導，電子の性質などが設置されており，身近でありながら理解しにくい現象が分かりやすく体験できる内容となっている。



電気抵抗

「運動と力」は，物体にはたらく力と運動の関係について，実際に物体の運動のようすが観察できる装置を設置している。振り子を使った装置では，長さと周期の関係について学べる装置や大きな振り子が運動するようすから力学的エネルギーについて学ぶことがで



力学的エネルギーの保存の法則

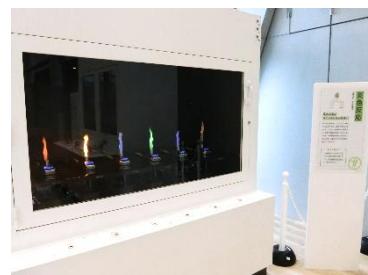
きる。滑車を使った装置では、てこの原理や定滑車と動滑車の違いについて体験できる。空気に関する装置では、常圧と真空状態での物体の落下の仕方や音の伝わり方などを実際に比べることができる。また、コアンダ効果や浮力、パスカルの原理を体験でき、視覚的に捉えにくいものを分かりやすく学ぶことができる。

「エネルギーの利用」は、運動、光、熱エネルギーを電気エネルギーに変換する装置やボイル・シャルルの法則について体験する装置などを設置している。ペダルを漕いで発電する装置も人気があり、実際に体を動かしながらエネルギーについて学ぶことができる。

「物質の性質」は、香りファクトリー(エステル合成と香りブレンド)や中和、化学発光、6種類の物質(リチウム(赤)、ナトリウム(黄)、カリウム(紫)、銅(緑)、セシウム(青紫)、バリウム(黄緑))の炎色反応を観察できる化学実験装置などが設置されており、化学変化について学ぶことができる。



ボイル・シャルルの法則



炎色反応

※令和6年4月より展示リニューアルオープン

Ⅳ 事業概要

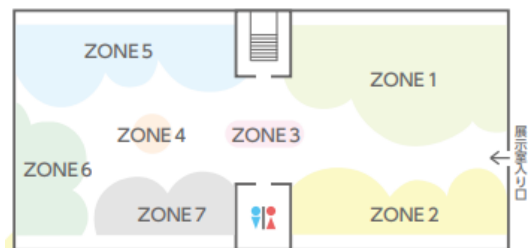
1 学芸事業

【1 展示関係】

(1) 常設展

③ 生活と科学～ワンダーサイエンスルーム～

令和6年の4階常設展示のリニューアルオープンに引き続き、令和7年4月に3階常設展示を含めた全館リニューアルオープンを迎えた。仙台市科学館の前身であるサイエンスルーム時代から引き継がれる、体験を通して科学を楽しみながら学ぶ形はそのままに、科学の不思議（ワンダー）を追加して、ワンダーサイエンスルームと名称を変更した。生活系展示として、身近なものや現象を科学の目を通してみる事ができる展示物が並ぶ。大きく7つのゾーンに分かれていて、床や壁の色でゾーン分けをしている。



Zone1 チャレンジ・ラボ

身近な現象について体験できるゾーン。大きなしゃぼん玉の中に入ったり、磁石を使って磁性流体を動かしたり、身近にある不思議を使った展示物が並ぶ。チャレンジ・ラボスペースでは、こどもから大人まで楽しめる簡単な実験や科学工作に挑戦できるコーナーや科学おもちゃで遊べるコーナーなど、時間帯によってさまざまな催しを行えるスペースを備えた。



Zone2 自然と災害

気象と地震、生活に大きく影響する自然現象について学べるゾーン。入口には高さ3mの竜巻・台風発生装置があり、うずの動き、仕組みについて観察できる。地震体験シアター「グラリくん」は、東北地方太平洋沖地震や岩手・宮城内陸地震時に観測された波形データを基に体験内容を製作している。また、震度3～震度5強のゆれの違いを体験できる。他にも、東北大地震噴火予知研究観測センターや地球環境学研究所との連携展示、防災クイズなどの体験を通して、自然現象や自然災害、防災・減災について学ぶことができる。



Zone3 自分のふしぎ

自分の声や手についての不思議を体験できるゾーン。ワンダーボイスに話しかけると、声が高くなったり、低くなったり、また、早送り、スロー再生、言葉の逆再生と5つのパターンに変換される様子が楽しめる。ワンダースキャンに手を入れると、骨や血管、筋肉や表面温度を見ることができる。また、自分の手がいくつかの動物の手になり、指を動かすことで、人の手のつくりと共通する部分を調べることができる。声や手にはどんな不思議があるのか、体験を通して学べる。



Zone4 ワンダータワー

運動に関わる様々な原理や仕組みを学ぶことができるゾーン。中央には 2m90cm の巨大なタワーがそびえ立ち、ギアやリンクなど、4 種類の機構を利用してボールを運ぶ体験ができる。それぞれの機構を上手く操作して、タワー内にあるゴールにボールを運ぶ。また、橋の構造やギアパズルなどのハンズオン展示がある。



Zone5 乗り物ガレージ

身近な乗り物の構造や仕組みについて学ぶことができるゾーン。本物の飛行機（エアロスバル）やフォーミュラカー（F3 RT34）に搭乗し、運転しているような臨場感ある写真を撮影することができる。また地下鉄運転シミュレータでは、地下鉄南北線台原駅～旭ヶ丘駅間の運転体験ができるほか、電車の車輪のしくみを学ぶ展示物などが並ぶ。



Zone6 感覚のふしぎ

視覚や聴覚など、人の感覚の不思議を体験できるゾーン。偏光板を使った「消える絵、あらわれる絵」では、偏光板を回すと絵が変わったり、白かった絵がカラフルに見えたりする体験ができる。鏡面が動いて体がゆがんで見える「ふしぎな鏡」、体の大きさが変化して見える「エイムズの部屋」など、何度も試してみたいような不思議な体験ができる。



Zone7 連携ラボ

宮城・仙台で行われている先端の科学や研究を体験しながら楽しく学べるゾーン。遺伝情報のゲノムをゲームで学べる「ATGC ナノの旅」、放射光施設「ナノテラス」の仕組みや放射光を用いた先端研究の紹介、近視の予防方法などを学べる「眼科診察室」がある。



※令和7年4月よりリニューアルオープン

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(1) 常設展

④ エントランス展示

3階エントランス展示では、様々な科学に関する偉人や、仙台市にゆかりのある展示物を紹介している。主に7つのブースや展示物で構成している。令和7年4月から展示を開始した。

・アロサウルス全身骨格標本（レプリカ）

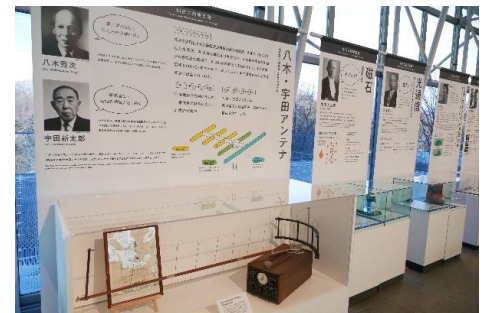
斎藤報恩会より寄贈されたアロサウルスの全身骨格標本を展示している。体長12m、体重約4トンの大型肉食動物。二足歩行で尾を浮かせて移動していた。前肢には3本の指とかぎ爪状の末節骨があった。アロサウルスは「変わったトカゲ」の意味。斎藤報恩会では、頭を上げ尻尾を下げた立ち姿で展示していたが、科学館への移動の際に、頭を下げた前傾姿勢に変更。さらに、今回のリニューアルでは、頭の位置を少し上げて歩行姿勢へと変更した。



アロサウルス

・仙台の発明宝箱

仙台にゆかりのある科学に関する偉人を紹介している。当時世界最高の磁石であるKS鋼を開発した東北大学の本多光太郎氏、現在でも受信用アンテナとして使われている八木宇田アンテナを開発した八木秀次氏と宇田新太郎氏、光ファイバーや半導体の権威である西澤潤一氏、ソフトレーザによる質量分析技術の開発によりノーベル化学賞を受賞した東北大学出身の田中耕一氏の5名である。それぞれの経歴の紹介の他、関係する機器などを展示している。



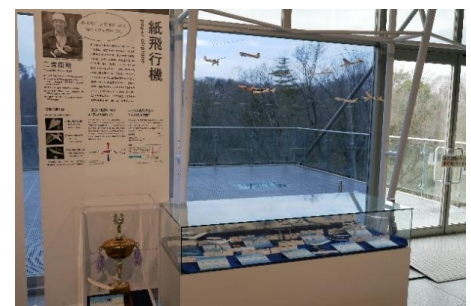
仙台の発明宝箱

・人力飛行機

東北大学の学生サークルが製作した人力飛行機をエントランス天井に展示している。また、コックピットや軽量化を図るための工夫が紹介されている。翼や動画などの関連展示も行っている。

・二宮康明氏紙飛行機展示

世界的な紙飛行機製作の権威である仙台市出身の二宮氏の紹介と氏が製作した紙飛行機や第1回国際紙飛行機大会の優勝トロフィーを展示。トロフィー脇の紫のリボンは、実際に飛行した距離と同じ長さになっている。



二宮康明氏紙飛行機展示

・スタンプロボ

旧仙台市科学館（東二番丁長銀ビル地下）で展示していたロボットを継続して展示している。紙をロボットの前に入れるとセンサーが反応しスタンプを押す。科学館のシンボリックな存在。

・科学分野における仙台市名誉市民紹介

本多光太郎や西澤潤一、岩崎俊一氏などの科学分野で仙台市名誉市民となった先人12名をQRコードで紹介している。

・仙台市科学館初代館長加藤多喜雄氏紹介展示

仙台市科学館の初代館長である加藤多喜雄氏の経歴紹介や加藤家の植物採集に使う胴乱を展示している。

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(2) チャレンジ・ラボ

① トライタイム

来館者がスタッフと交流しながら心に残る実験や科学工作の体験ができる。また、実験を通して科学についての興味や関心を深め、科学のおもしろさ不思議さが体験できる実験コーナーとして、休館日を除き、毎日2回（午前の部 10:20～11:15、午後の部 13:30～14:25）開催してきた。

令和7年度4月からは3階展示室がリニューアルオープンし、チャレンジ・ラボコーナーは目的に合わせてレイアウトを変化させながらのフレキシブルな活用が可能となった。

令和7年度トライタイム実施結果

月	メニュー	参加者数 (人)
4	ソーマトロープ	2,671
	アルソミトラを飛ばそう	918
	なきごえコップ	1,718
5	リング・リング・グライダー	532
	起き上がりこぼし	3,761
	バランスフィッシュ	956
	マジカル水中カード	1,750
6	ふわふわボール	1,681
	ラワンのタネ	965
	飛行リング	758
	ころりんエッグ	1,461
7	クライミングカード	888
	ソーマトロープ	2,073
	沖縄の海砂でストラップを作ろう	663
	ひっぱれ！マグネット	1,877
8	錯視カード	3,481
	マジカル水中カード	1,711
	空気であそぼう	3,719
	吹きごま	718
	沖縄の海砂でストラップを作ろう	678
9	浮沈子	1,026
	紙トンボ	1,483
	バランストンボ	684
	シュワシュワ入浴剤	1,373

月	メニュー	参加者数 (人)
10	水中シャボン玉	936
	ベンハムのコマ	1,315
	スライムをつくろう	914
	ころりんエッグ	925
	ブンブンごま	592
11	ゆらゆらバード	1,248
	ラワンのタネ	671
	飛ばそうブーメラン	400
	なきごえコップ	916
12	化石レプリカをつくろう	676
	かさぶくろロケット	401
	キラキラレインボー	995
	飛行リング	447
1	ミニタコをつくろう	1,226
	メルティスタンプ	640
	すいあげフラワー	871
2	リング・リング・グライダー	865
	ケミカルあぶり出し	597
	静電気クラゲをつくろう	1,180
	色をわけよう	477
3	偏光の不思議	429
	ホログラムカード	1,121
	スライムをつくろう	1,606
	アルソミトラを飛ばそう	1,181
合計		58,174



トライタイム実施風景 1



トライタイム実施風景 2

令和2年度からは、家庭でできる科学工作や実験を紹介する動画「おうちでチャレンジ・ラボ」を公開している。動画は、当館で制作したもので、合計24本をYouTubeにて配信し続けている。YouTubeの視聴回数は、令和8年3月末時点で約98,600回である。

②プレイタイム

来館者が科学おもちゃ等で自由に遊びながら学ぶことができる。トライタイムやショータイム、講演会を除く時間などにチャレンジ・ラボコーナーを開放し毎日実施している。パズルやコマ、からくりおもちゃなど、種類や難易度も様々なおもちゃを取り揃え、来館者はじっくり集中して体験することができる。

また、チャレンジ・ラボコーナーの一角は、季節のイベントとしてフォトスポットを設けたり、通常時は小さいお子さま向けのスペースとして活用している。

令和7年度4月の3階展示室リニューアルオープン後から新たに運用を開始し、こどもから大人まで楽しめるコーナーとして定着してきた。



プレイタイム実施風景 1



プレイタイム実施風景 2



プレイタイム実施風景 3



プレイタイム実施風景 4

③ショータイム

ショータイムは、具体の実験による不思議な科学現象を目の当たりに体感させることにより、科学に対する関心・意欲を深める取組の一つとして位置づけている。

社会教育指導員が中心となり、不定期ではあるが土曜日、日曜日、祝日や学校の長期休業中の期間に、1回20分程度のショーを実施する。未就学児や小学生から年配の方までの幅広い年齢層を対象としている。令和7年度は3階展示室リニューアルオープンに伴い、チャレンジ・ラボコーナーを会場とし、月に1～2回の頻度で実施した。



令和7年度 ショータイム実施結果

月	内容	実施回数 (回)	参加者数 (人)	平均参加者数 (人/回)	月	内容	実施回数 (回)	参加者数 (人)	平均参加者数 (人/回)
4月	低温の科学	7	678	96.9	11月	空気であそぼう	2	106	53.0
5月	低温の科学	2	177	88.5	12月	空気であそぼう	2	133	66.5
6月	低温の科学	2	153	76.5	1月	空気であそぼう	2	151	75.5
7月	低温の科学	1	72	72.0	2月	空気であそぼう	1	70	70.0
9月	低温の科学	2	119	59.5	3月	空気であそぼう	1	83	83.0
10月	空気であそぼう	2	110	55.0	合計		24	1,852	77.2

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(3) 特別展

①特別展概要

1 名称 リニューアル記念特別展「海と生きもの探検記」

2 ねらい

- (1) 本展は、地球の表面の約3分の2を覆う海と海に生息する生物をテーマに、アメリカ自然史博物館が企画した” Unseen Oceans展” で展示された映像やサメに関するパネル展示” The World of Sharks(2D)” を日本初公開し、来館者の「海」に関する興味関心を高める
- (2) 海洋生物の剥製や模型、骨格標本等の展示や関連する映像展示などを通して、来館者が海洋生物の生態について基本的な知識を学ぶ場を提供する。また、研究が進められている蛍光生物や深海底掘削調査に関する最新の研究成果を紹介する。
- (3) 海洋には多様な生物が生息しており、多様性に富んだ生態系が成立している。近年では、気候変動と海洋の関わりについて関心が高まっており、海洋調査研究が活発に行われている。本展を通して、生命の尊さと大切さを伝えるとともに、それを支える調和ある海洋環境を未来へ引き継ぐことの大切さを普及・啓発する。

3 開催期間

2025年7月19日（土）～同8月24日（日） 開展日数33日間
休館日7月22日、28日、8月4日、18日（期間中休館4日間）

4 開催場所

仙台市科学館 2階特別展示室、第3実験室、第4実験室前 他
3階エントランスホール、企画展スペース

5 主催・共催・後援等

(1) 主 催 仙台市教育委員会

(2) 主 管 仙台市科学館

(3) 協 力 アメリカ自然史博物館（AMNH）、国立科学博物館、海洋研究開発機構（JAMSTEC）、産業技術総合研究所地質調査総合センター、仙台うみの杜水族館、新江ノ島水族館、（一財）沖縄美ら島財団、東北大学総合学術博物館、東京大学大気海洋研究所、帝京科学大学、気仙沼シャークミュージアム、おしかホエールランド、八木山動物公園フジサキの杜、港区立みなと科学館、京都市動物園、仙台 ECO 動物海洋専門学校、みちのく古生物研究会

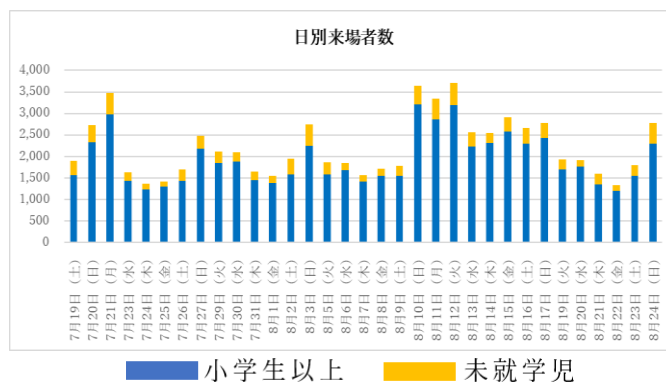
(4) 協力者 東北大学 Cheryl Lewis Ames 氏、京都市動物園 工藤宏美 氏
帝京科学大学 青木かがり 氏、名城大学 檜崎友子 氏

(5) 後 援 宮城県教育委員会

6 特別展入場料

- ・ 個人：一般1,000円，高校生600円
小学生・中学生300円
- ・ 団体：一般 800 円，高校生 480 円
小学生・中学生 240 円

※30 名以上を団体とする。団体利用の場合は，30 人につき 1 人の割合で無料とする。



7 特別展入館者数

73,104 人（内，未就学児 9,423 人）※仙台市科学館特別展過去最多

8 展示内容

【2階 特別展示室】

(1)「序章 海水 -Sea Water-」

アメリカ自然史博物館が制作した砂浜に押し寄せる波の映像を床に投影し，来場者が海にきたことを疑似体験するエントランスとした。波の映像のそばには，国内外 10 地点の砂浜の砂を展示し，その構成物の違いを紹介した。海塩や 24 億年前の海水化石を展示し，海水の成分を紹介した。また，海水中の微生物に着目し，アメリカでの微生物調査の映像や微生物の拡大画像，アメリカ自然史博物館が制作したモニター上の魚等の幼体の姿を当てる“Find My Baby Picture”の日本語版を初公開した。さらに，仙台湾に生息するミズクラゲやギヤマンクラゲの生体も展示した。



図 1 会場入口のスロープ



図 2 床に投影した波の映像



図 3 国内外 10 地点の砂浜の砂



図 4 序章エリアの展示の一部

(2)「1章 サンゴ -Coral-」

サンゴとはどのような生物か，その生態や白化現象についてパネルや映像で紹介した。ハナガタサンゴやウミキノコとともに，カクレクマノミやデバスズメダイなどを水槽で展示した。硬いサンゴの骨格に触れるハンズオン展示を行ったところ，初めてサンゴに触れたという来場者が多く，好評であった。さらに，仙台，宮城で産出したサンゴ化石を展示し，過去にこの地域もサンゴが生息する環境であったことを紹介した。



図 5 1 章エリアの展示の一部



図 6 仙台・宮城で産出したサンゴ化石

(3) 「2 章 ウミガメ -Sea turtle-」

アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの剥製やアオウミガメの卵、幼体などを展示した。東京大学大気海洋研究所が三陸の海で調査しているウミガメのバイオリギングについて紹介するとともに、ウミガメの心拍数を調査した映像展示を行った。ウミガメの心拍数が少なく、驚く来場者も多かった。



図 7 2 章エリアの展示の一部



図 8 ウミガメの卵や幼体の展示

(4) 「3 章 深海 -Deep sea-」

国立科学博物館が所蔵するシーラカンス、ダイオウイカの魚拓を展示した。シーラカンスの前にはメジャーを設置し、来場者が自ら魚拓の大きさを測ることができるようにした。次に深海生物の実物や模型の標本を展示し、深海の環境下で生きる生物について紹介した。冷凍ショーケースを使用した展示では、三陸沖で採集されたバラムツやオニキンメなどの深海魚の冷凍標本を展示した。さらにバラハナダイなどの蛍光を発する魚の冷凍標本にブラックライトを照射し、蛍光の様子が分かるように展示した。

また、海洋研究開発機構（JAMSTEC）が所有する海底掘削船「ちきゅう」による東北地方太平洋沖地震後の海底掘削調査（通称 JFAST, JTRACK）について紹介した。



図 9 魚拓展示



図 10 深海生物模型展示



図 11 深海魚の冷凍展示



図 12 海洋掘削調査展示

(5) 「4 章 蛍光生物 -Biofluorescence-」

アメリカ自然史博物館や沖縄美ら島財団の研究から、海には 250 種類以上蛍光生物がいることが分かっている。沖縄美ら島財団の研究で蛍光することが分かっている 15 種類の生物の模型や写真を展示するとともに、アメリカ自然史博物館や沖縄美ら島財団総合研究所が行った調査映像を用いて海の蛍光生物を紹介した。また、キクメイシやスターポリプ、ハナガタサンゴなどの蛍光を発するサンゴの生体を展示した。



図 13 蛍光生物エリアの展示の一部

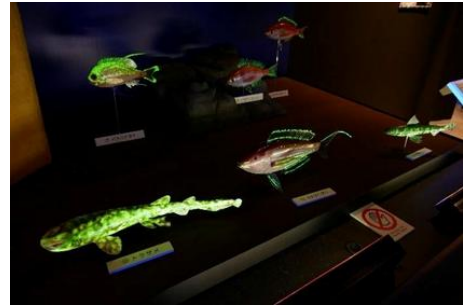


図 14 蛍光生物模型展示

(6) 「5 章 サメ -Sharks-」

アメリカ自然史博物館が製作したパネル展” The World of Sharks (2D)” を日本初公開した。国立科学博物館が所蔵する体長約 5.7m のメガマウスザメの剥製や体長約 5.0m のホホジロザメの剥製の他、ヨシキリザメなどの顎骨を 7 点、アズマギンザメやフジクジラの冷凍標本、宮城県産出のムカシオオホホジロザメ（メガロドン）の歯化石などを展示し、サメの生態を紹介した。



図 15 ホホジロザメとメガマウスザメの剥製



図 16 The World of Sharks (2D) の一部



図 17 サメの顎骨展示



図 18 ムカシオオホホジロザメの歯化石

(7)「6章 ホニウ類 -Marine mammal-」

ゼニガタアザラシやゴマフアザラシ、オットセイなどの鰭脚類の剥製、ラッコやホッキョクグマの剥製、シャチやジュゴンの模型などを展示し、海棲哺乳類を紹介した。2023年に仙台市若林区荒浜に漂着したスジイルカの全身骨格標本や仙台湾に生息するスナメリの全身骨格を展示するとともに、仙台湾でのスナメリの生息調査を紹介した。ハクジラとヒゲクジラの違いが比較できる頭部模型のハンズオン展示を行い、大変好評であった。



図 19 ホッキョクグマの剥製



図 20 6章エリアの展示の一部

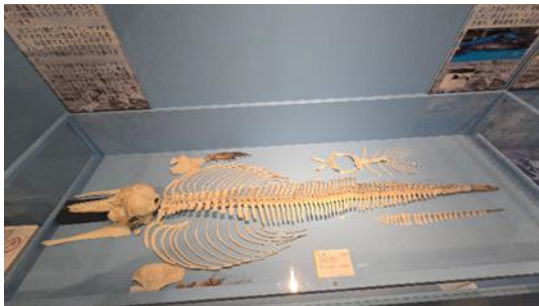


図 21 スジイルカの全身骨格標本



図 22 クジラに関する展示

(8)「海シアター -Ocean theater-」

直径約 9m、高さ約 3.6m の円形スクリーンで 360 度の映像シアターを設置した。アメリカ自然史博物館が製作した VR 映像”Swimming With Giants”と”Unseen Oceans 展”で展示された”Encountering Giants”を上映した。シロナガスクジラやダイオウイカ、マッコウクジラ、ジンベエザメ、マンボウなどの迫力ある映像展示を行い、大変好評であった。



図 23 ダイオウイカの映像

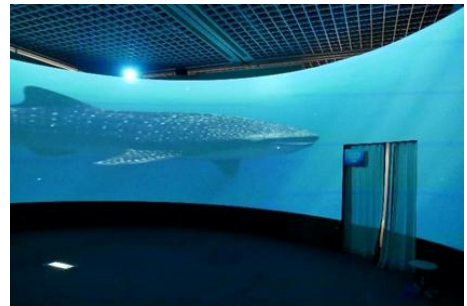


図 24 ジンベエザメの映像

(9)「7章 エピローグ：海を守るために -To save the ocean-」

仙台市内の海岸で採集された海洋プラスチックやクジラの胃内容物の展示、海洋酸性化の影響を受けたミジンウキマイマイの模型を展示した。海水温の上昇、海洋酸性化、海洋プラスチックゴミ等の海が抱える諸問題を紹介し、来場者が海洋環境について考えるきっかけとなるようにした。



図 25 海洋酸性化や温暖化に関する展示



図 26 クジラの胃の内容物

(10)「探検記と探検記ノート」

特別展示室内 10 カ所に来場者が展示物を見るきっかけとする探検記を設けた。リーフレット内で、会場図とともに設定した 10 個のリサーチ項目を紹介した。また、小学生以下を対象に特別展示室受付にて探検記ノートと鉛筆を配付し、調べたことを記録しながら見学できるようにした。

設置した 10 個のリサーチ項目は以下のとおり。

- No.1 砂浜の砂のちがいを見てみよう
- No.2 どちらが海水？ふってくらべよう
- No.3 サンゴの骨格をさわってみよう
- No.4 ウミガメの心ぞうの音を聞いてみよう
- No.5 シーラカンスの大きさはどのくらい？
- No.6 蛍光が見られるサメを見つけよう
- No.7 サメの歯のちがいを見てみよう
- No.8 アザラシとオットセイの耳のちがいを見てみよう
- No.9 スナメリの胸びれの骨を見てみよう
- No.10 クジラの胃の中から見つかったものは？

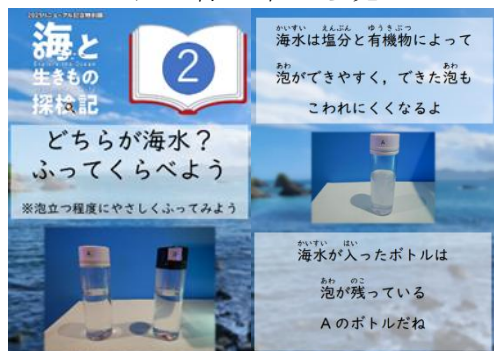


図 27 探検記の一例（左：表紙、右：内面）

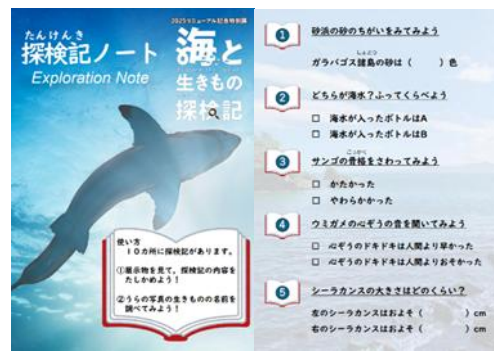


図 28 探検記ノート（左：表紙、右：内面）

【2階 第4実験室前】

「科学館にいる海の生きもの」

仙台市科学館で収蔵しているアオウミガメやタイマイ、アデリーペンギンなどの剥製を中心に展示した。さらに、仙台市八木山動物公園が所蔵しているカリフォルニアアシカの剥製も展示した。



図 29 第4実験室前の展示

9 関連イベント

(1) 海の研究講演会① 7月26日(土)

演 題 「蛍光する魚の謎にせまる！」

講 師 (一財) 沖縄美ら島財団 主任研究員 宮本 圭 氏

会 場 2階 第2実験室, 3階 チャレンジ・ラボ

※講演会后, 特別展示室内で展示解説も開催。

内 容 ブラックライトを当てると光る「生物蛍光」とよばれる現象について, どんな魚が蛍光するのか, 実際に蛍光する魚を観察しながら解説していただいた。

参加者 62名



図 30 第2実験室での講演



図 31 チャレンジ・ラボでの講演

(2) 海の研究講演会② 7月29日(火)

演 題 「さかなクンのギョギョッとびっくりお魚の話」

講 師 東京海洋大学 名誉博士/客員教授 さかなクン 氏

会 場 3階 チャレンジ・ラボ

内 容 来場者のこどもたちがリクエストした魚について, 模造紙に絵を描きながら解説していただいた。

参加者 208名



図 32 講演の様子①



図 33 講演の様子②

(3) 海の研究講演会③ 8月2日(土)

演 題 「『ちきゅう』による宮城県沖掘削調査の最前線」

講 師 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 高知コア研究所 研究員 奥田 花也 氏

会 場 3階 チャレンジ・ラボ

※講演会前, 特別展示室内で展示解説も開催。

内 容 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の地球深部探査船「ちきゅう」によって2012年と2024年に実施された, 東北地方太平洋沖地震の震源域・宮城県沖日本海溝付近における掘削調査について, 洋上での掘削の流れや研究生活の実体験も含めて解説していただいた。

参加者 25名



図 34 講演の様子①



図 35 講演の様子②

(4) 海の研究講演会④ 8月9日(土)

演 題 「東北にやってくるウミガメ おどろきのひみつ」

講 師 東京大学大気海洋研究所 准教授 坂本 健太郎 氏

会 場 3階 チャレンジ・ラボ

※講演会后、特別展示室内で展示解説も開催。

内 容 東北にやってくるウミガメのバイオリギング調査から分かったウミガメの行動や生態について解説していただいた。

参加者 54名



図 36 講演の様子①



図 37 講演の様子②

(5) 海の研究体験 8月17日(日)

演 題 「Dr. エイムズといっしょに海の生きものを探そう」

講 師 東北大学大学院農学研究科 国際海洋科学教授
元スミソニアン国立自然史博物館 クラゲ分類学研究者
エイムズ・シェリル 氏

会 場 2階 第2実験室

内 容 エイムズ氏が研究している環境 DNA について、研究方法を解説していただいた。
実際にイチゴから DNA を抽出する体験をした。

参加者 38名



図 38 実験室の様子



図 39 体験した実験の様子

(6)海のサイエンスカフェ 8月23日(土)

演 題 「“海の森”の驚きのチカラにせまる！」

講 師 国立研究開発法人 港湾空港技術研究所
沿岸環境研究領域長 桑江 朝比呂 氏

内 容 海藻や海草のはたらきやブルーカーボンなど、海の森のチカラについて講師の桑江先生やファシリテーターを務めた同志社大学ハリス理化学研究所の榎太一氏とカフェスタイルで話し合った。

参加者 26名



図 40 サイエンスカフェの様子①



図 41 サイエンスカフェの様子②

(7)海の生きものとふれ合おう (タッチプール)

7月21日(月・祝), 8月3日(日)

会 場 3階 エントランスホール

内 容 トラザメやナマコ、ヒトデなどの海の生きものに触れるタッチプールを開催した。

協 力 仙台うみの杜水族館

参加者 7月21日(月・祝) 1,204名

8月3日(日) 550名



図 42 タッチプールの様子

(8)沖縄の海砂でストラップを作ろう 7月21日(月・祝), 8月17日(日)

会 場 3階 チャレンジ・ラボ

内 容 沖縄の海砂から微小貝やサンゴの骨格を探し、ケースに入れてストラップを作った。

参加者 7月21日(月・祝) 663名

8月17日(日) 678名



図 43 ストラップ作りの様子



図 44 海砂とストラップの一例

(9)企画展「海藻おしば展 ようこそ海の森へ」

会 場 3階 企画展スペース

内 容 海藻おしばやアクリル封入標本を展示し、海藻や海草でつくられる海の森の役割を紹介した。

協 力 海藻おしば協会



図 45 展示の一部①



図 46 展示の一部②

(10) サメペーパークラフト

会 場 2 階 第 3 実験室

内 容 頭にかぶることができる、ホホジロザメのペーパークラフトを製作するコーナーを設けた。
ペーパークラフト配付枚数：16,519 枚

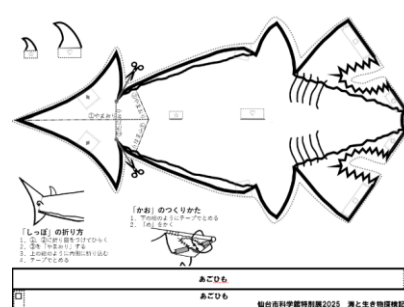


図 47 ペーパークラフトの台紙

(11) オーシャンパーク

会 場 3 階 エントランスホール

内 容 エントランス内にカーペットを施し、オーシャンパークを設けた。ダンボール製のクジラすべり台やウバザメトンネル、ウミガメ山、ペイントすなばなど、小学生以下を中心に海の生物に囲まれて楽しめるスペースとした。パーク内の 100 インチモニターには、アメリカ自然史博物館が制作したサメの映像展示を行った。

体験人数 未就学児 8,969 人 小中学生 7,350 人 高校生 44 人 一般 10,968 人
総数 27,331 人



図 48 オーシャンパーク



図 49 ウバザメトンネル

10 広報について

(1) 館内での事前告知

5 月 24 日より入館者に A5 版のフライヤーを配布した。また、エントランスホールに垂れ幕を設置し、開催を告知した。



図 50 A5 版フライヤー

(2) 県内の教育機関や博物館などへの広報

市内の小中学校，市立高校と市内の保育園や幼稚園，こども園，県内の小学校等にポスターと人数分のリーフレットを配付した。また，県内，東北地方の博物館などにもポスターを配付し，掲示を依頼した。



図 51 ポスター

(3) 報道関係への広報

7月17日（木）に報道関係者向けの内覧会を実施し，4社が参加した。

(4) SNS・その他

2025年4月の3階常設展示室リニューアルオープンに合わせ，科学館公式 X を開設した。科学館ホームページでの広報に加え，公式 X を活用して特別展情報を広報した。

特別展示室の展示作業後にガイド動画を撮影した。撮影には同志社大学ハリス理化学研究所の榎太一氏に協力いただいた。ガイド動画は，科学館公式 YouTube で公開した他，科学館内，一部を仙台市役所デジタルサイネージで上映し，広報の一役を担った。

仙台市地下鉄南北線全車両に車内窓ガラスステッカー広告を掲示し，南北線と東西線の各駅にポスターを掲示した。



図 52 ガイド動画



図 53 地下鉄車内ステッカー

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(3) 特別展

②特別展アンケート調査

1 特別展来場者アンケートについて

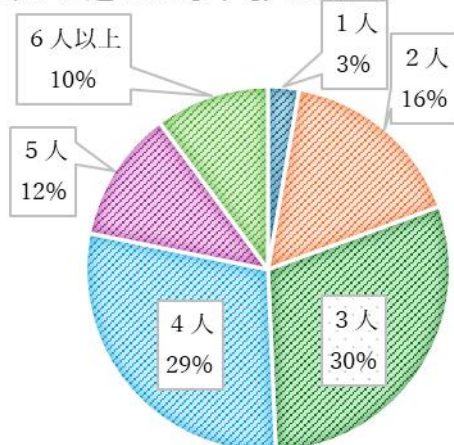
以下の内容でアンケート調査を実施した。

- ・実施日：8月12日（火）～8月24日（日）（ただし、8月18日（月）休館日は除く）
- ・方法：①科学館内6ヵ所にQRコードを設置し、来場者の端末で回答していただく。
②特別展示室出口付近でスタッフが来場者に声掛けし、来場者の端末またはアンケート用紙に記入していただく。
- ・回答数：実施期間12日間で630名の来館者から回答を得た。

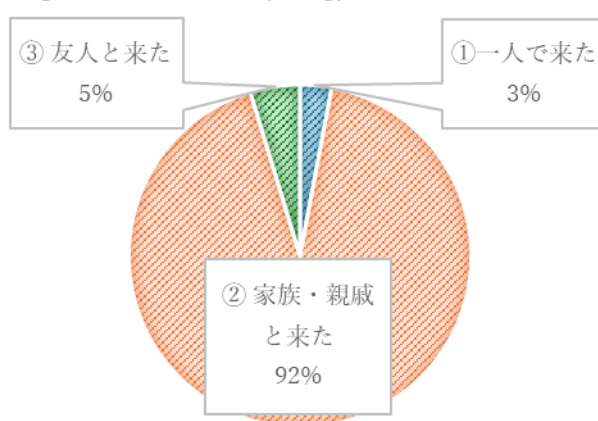
2 アンケートの回答について

(1) 来場者について

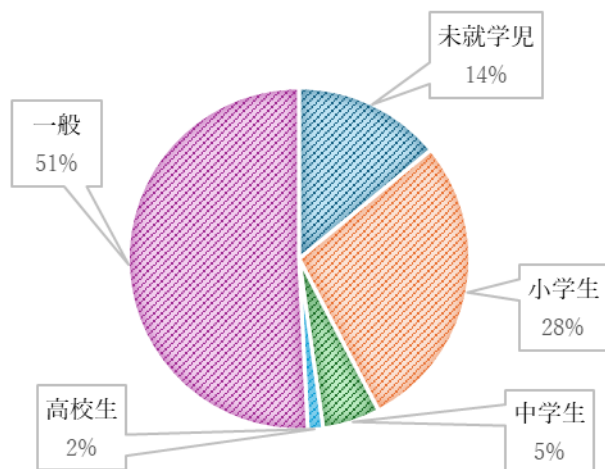
何人でお越しになりましたか？



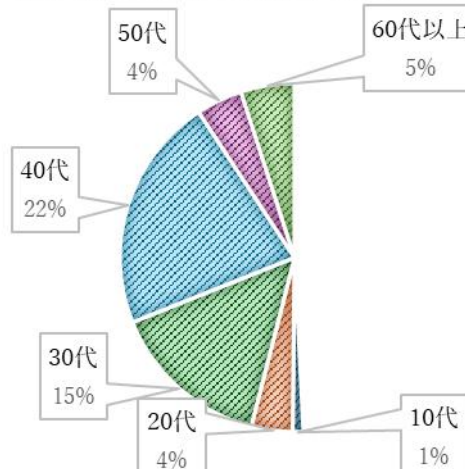
どなたといらっしゃいましたか？

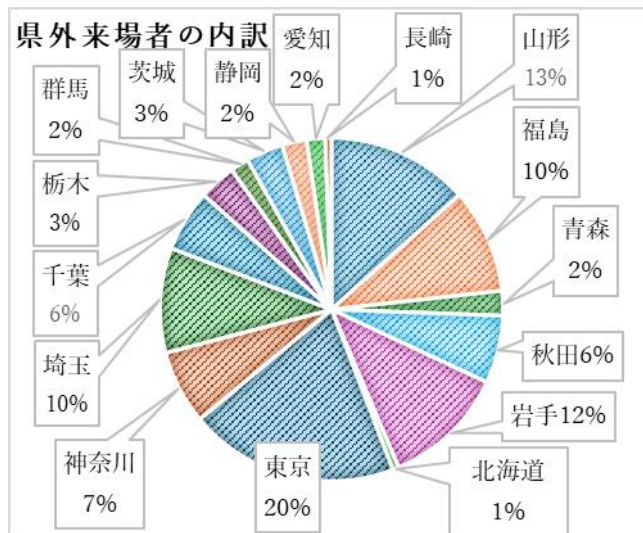
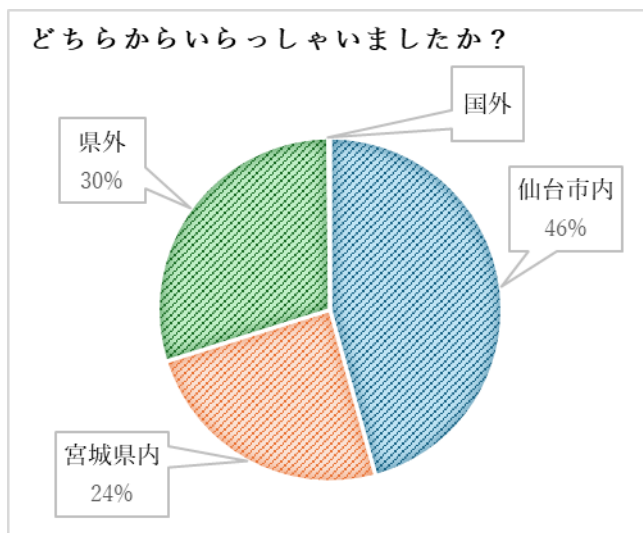


お越しになった方の属性別構成比

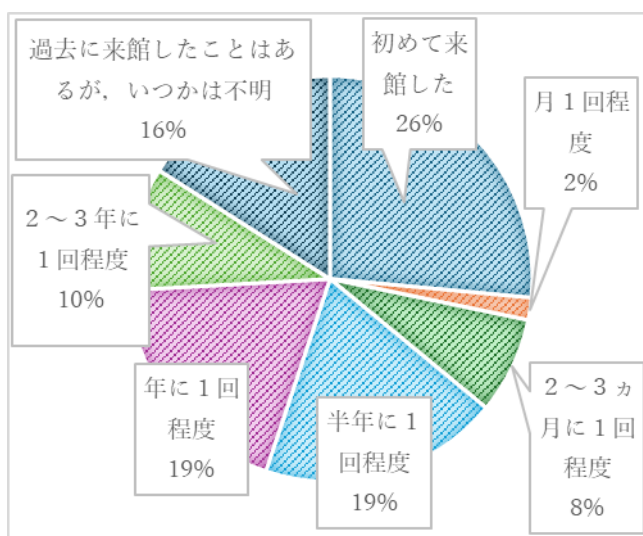


一般でお越しになった方の年齢別構成比

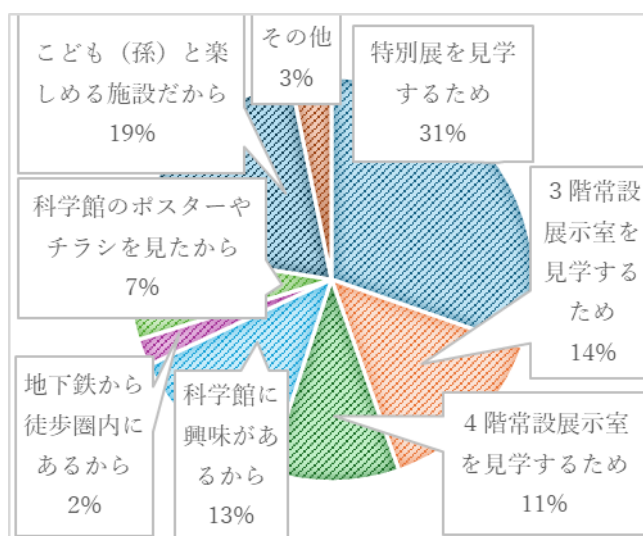




仙台市科学館の来館頻度

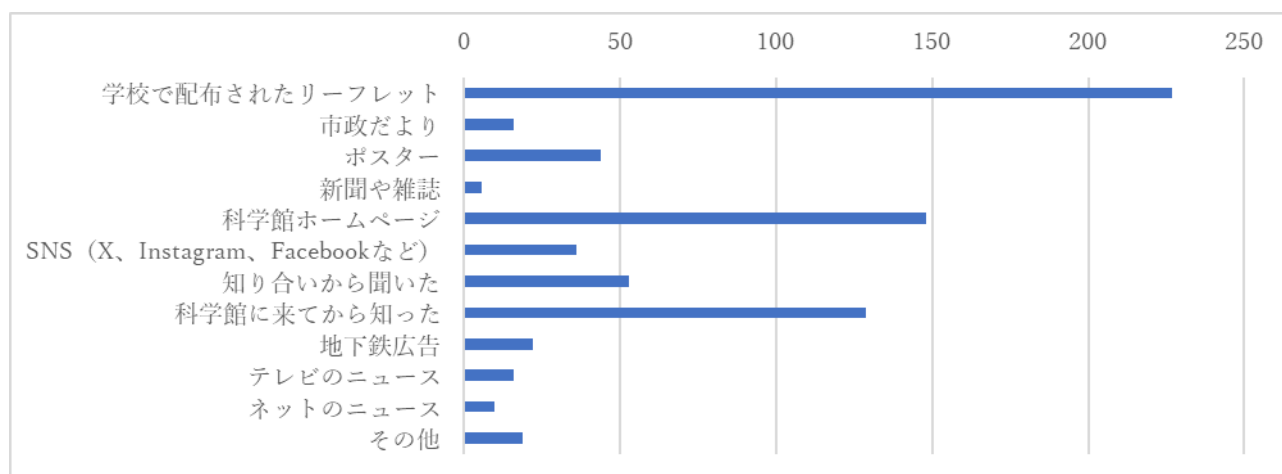


今回、来館したきっかけ（複数選択可）



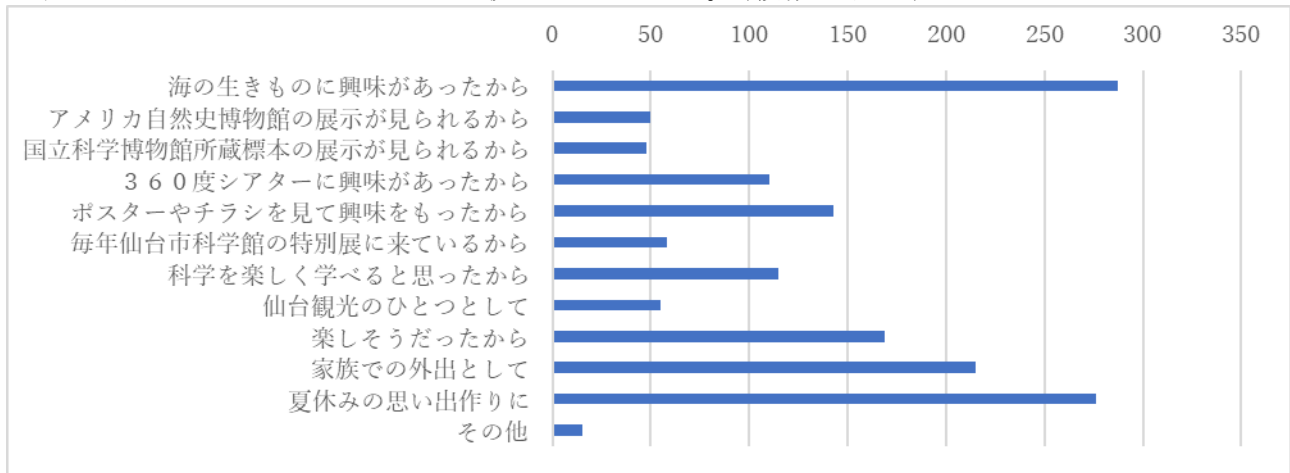
(2) 広報等について

特別展をどのようにお知らせになりましたか？（複数選択可）



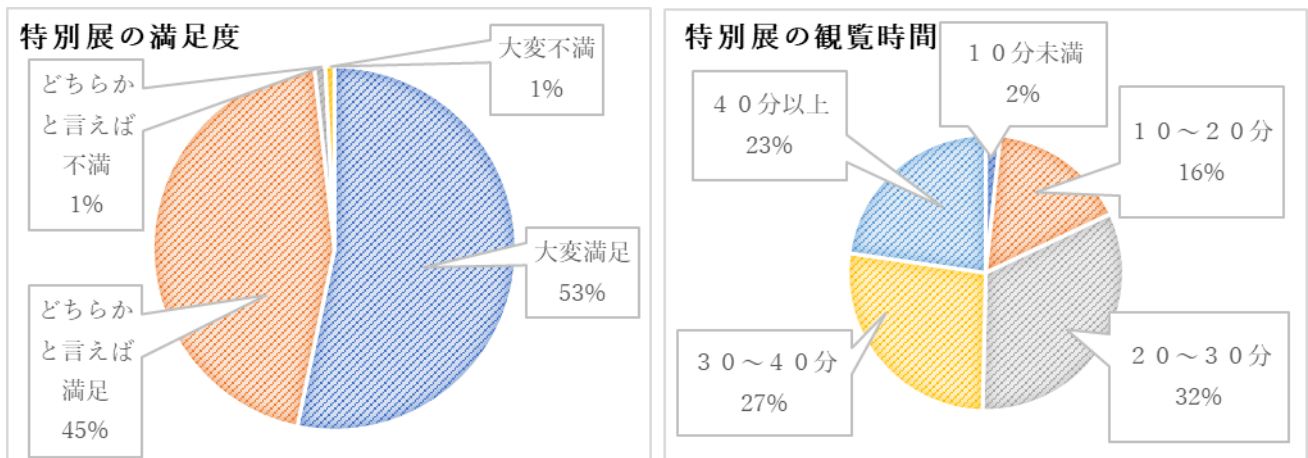
【その他】・東北大学サイエンスデイでチラシを見た ・国立科学博物館でチラシを見た
 ・特別展が始まる前に来館した際に知った ・保育園で配布されたチラシを見た
 ・TDK 歴史みらい館でチラシを見た ・市役所で知った など

特別展にお越しになった理由を教えてください。(複数選択可)

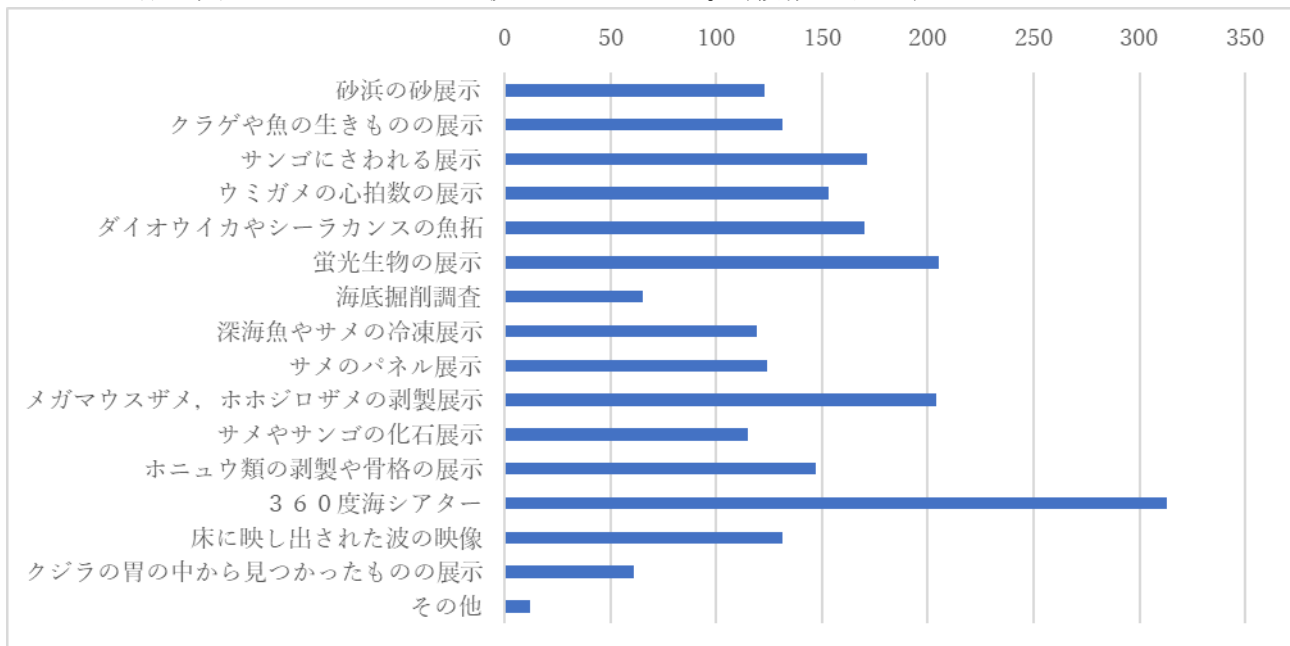


【その他】・自身の研究活動, 学習目的 ・サメが好きだから ・さかなクンが好きだから
 ・自由研究に役立つと思ったから ・こどもが行きたがっていたから
 ・海洋プラスチックのことをこどもが調べていたから など

(3) 展示内容等について

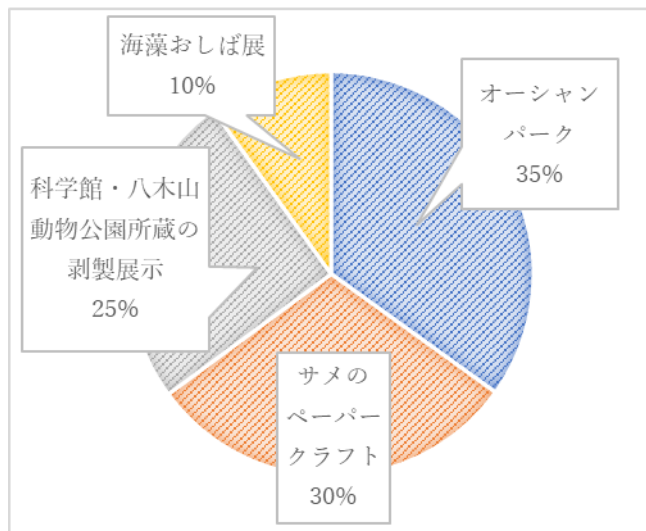


展示内容で興味を持てたものを教えてください。(複数選択可)

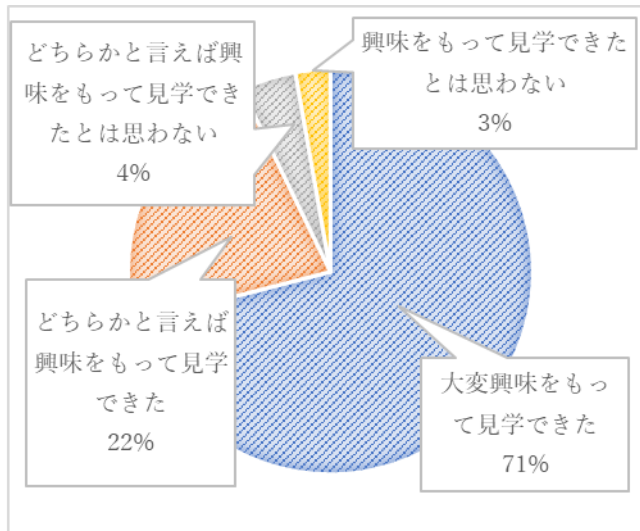


【その他】・アメリカの研究についての映像 ・ホッキョクグマの毛
 ・絶滅した生きもの ・シャチ ・環境問題 など

特別展示室外の体験，展示で興味を持てたもの（複数選択可）



探検記ノート（小学生以下対象に配付）があることの効果について



(4) 特別展の感想（自由記述の抜粋）

< 成果 >

- ・ 360度シアターの映像に迫力があり，こどもも大喜びだった。
- ・ クイズ形式で海の生きもののことを知れて，勉強になった。
- ・ 大人や高校生も満足できる内容だったと思う。
- ・ 幼児も楽しめてよかった。
- ・ 素晴らしい展示でした。
- ・ 日本語と英語の併記はよかった。
- ・ パネルの解説は読み応えがあった。説明文も分かりやすく大満足です。
- ・ 海水や砂浜の砂，サメなど普段は思いつかない着眼点での事実が興味深かった。
- ・ 魚拓やはく製は，大きさを実感できてよかった。
- ・ サメの解説，映像が特に印象的だった。
- ・ こどもが探検記ノートの問題をととても楽しんでいて。景品がなくともこんなに夢中になるものかと驚いた。
- ・ 高校生にも話せる内容がたくさんで授業のネタにも使いたいと思う。
- ・ 水族館で海の生きものをいろいろ見ていたつもりでしたが，もっと深く学べた。
- ・ 国立科学博物館収蔵標本を見ることができてよかった。
- ・ YouTubeのガイド動画を見て楽しみな気持ちがあがった。
- ・ サンゴなど触れてよかった。サメの迫力がすごかった。
- ・ 貴重なはく製や展示物が多く，地方の仙台としては大変贅沢な内容だった。
- ・ 大きな展示物，シアターなど，こどもが飽きずに見られる工夫がよかった。
- ・ フォトスポットもあって，思い出の写真が取れた。
- ・ シアターやはく製などネットや動画では見られないものが見られてよかった。
- ・ 学術的な視点をわかりやすく説明して興味深かった。
- ・ 学芸員の方々からの説明がよかった。
- ・ 海洋生物なので，水族館の経験と知識がつながる場面もあり，よいきっかけだと思う。
- ・ ホッキョクグマの毛やクジラのヒゲが触れて発見があった。
- ・ 生きものについての「学び」という面においては，今まで訪れたすべての施設の中で一番素晴らしいと思った。
- ・ 今回のように最先端で研究している方に会えるなど「本物」に触れる機会はこどもの刺激になった。
- ・ 遊び場がよかった。
- ・ 著名な方からのコメントもあって関心が高まった。
- ・ さかなクンの絵がとても素敵だった。

<課題>

- ・展示デザインがかっこよいが文字が小さかった。
- ・シアターのどこにどう座ればよいかはつきりしてほしい。
- ・通路が若干狭いかなと感じた。
- ・探検記ノートを書くスペースがほしい。
- ・シアターのイスが不足している。
- ・珍しいものもあったが、説明文がもう少しやさしければよかった。
- ・シアターが期待外れだった。天井までスクリーンがあるとうれしい。
- ・音声の解説がほしかった。
- ・クイズの漢字にすべてふりがなをふってほしい。
- ・シアターで床に座るのに抵抗があった。
- ・クイズに正解の景品があるとよい。
- ・会場が混みすぎていて不快だった。
- ・混雑しすぎているのでもう少し客数を減らす。
- ・シアターの内容はよかったが、プロジェクターの解像度が低かった。
- ・スタンプラリーや記念スタンプがあったらよかった。
- ・探検記ノートが終わった後に、記念品と交換できるとなよかった。
- ・探検記があることで楽しめる反面、そればかりに集中してしまうこともあった。
- ・ここから興味が広がるように、近隣の関連施設マップがあるとよい。
- ・大人版の探検記ノートも欲しかった。二次元コードから追加情報が見られて、それが答えになるようなもの。
- ・児童館に告知とかあればよい。
- ・メガマウスなどの展示、模型だと思って見ていました。剥製と気が付かなかったもので、もう少し大きく書いてほしい。
- ・小学生用と中学生以上向けで説明も2種類あるとベター。

<今後に向けて>

- ・展示を毎日一つずつ取り上げて深掘りすることも向けの講座があるとよい。
- ・海外の方にもっと来ていただけるよう、宣伝をより強化したほうがよい。
- ・古代の生活を科学の観点から展示しても面白いと思います。
- ・惑星に関する展示がみてみたい。
- ・半導体に関する特別展の実施を期待しています。
- ・エジプト展（科学の視点で）
- ・さわれたり体験できたりするものが増えるとうれしい。
- ・次はクジラをメインで。
- ・宮城県ではたくさんの化石や鉱物が出ていること、世界の砂と石の関係などの企画。
- ・また恐竜のイベントがあるといい。

アンケートより、来館者の98%が大変満足またはどちらかと言えば満足と回答しており、満足度の高い特別展を開催することができた。来場者の92%は、家族・親戚と来たと回答しており、昨年の90%と同様に高い割合であった。昨年は、来館者の59%が仙台市内からの来場者であったのに対し、今年は46%であった。今年は仙台市以外からの来場者が増え、県外からの来場者は6%増加した。また、26%が仙台市科学館に初めて来館したとの回答だった。

特別展来場の理由として最も多かったのは、「海の生きものに興味があったから」であった。これまでの科学館の特別展では、恐竜や昆虫をテーマにした際に来館者数が多かったが、リニューアルを機に科学館に興味をもち、潜在的に海の生きものに興味がある層に響き、来場者数の増加につながったのではないかと考えられる。

展示内容としては、迫力ある大型展示や360度シアター映像展示など、魅力ある企画となり、来館者層の拡大に寄与した可能性も高いと考えている。実際に興味をもった展示と

して 360 度シアターが最も多く、蛍光生物の展示やメガマウスザメ、ホホジロザメの剥製展示もそれに続く人気であった。

来場者より次のような感想があった。パネル解説は読み応えがあった、説明文も分かりやすく大満足、魚拓やはく製で大きさを実感できてよかった、日本語と英語の併記はよかった、学術的な視点を分かりやすく説明して興味深かった、などの肯定的な意見が多かった。小学生以下を対象にした探検記ノートや会場内に設置した探検記の評価も高かった。

一方で、課題として会場が混みすぎていること、文字が小さかった、通路が狭い、シアター内の椅子の不足などの意見をいただいた。過去最多の来場者にお越しいただいた特別展ではあったが、時間帯によっては大変混雑し、入館券の購入や特別展示室への入場に時間がかかり、行列管理に課題があったことは確かである。

今回の特別展のねらいであった来館者の「海」に関する興味関心を高めることや来館者が海洋生物の生態について基本的な知識を学ぶ場を提供し、研究が進められている蛍光生物や深海底掘削調査に関する最新の研究成果を紹介することについて、十分に達成できたと考えている。次年度以降の特別展事業においても、他の博物館や研究施設等との連携を図り、企画力の強化や来館者層の拡大を目指したい。また、家族での来場者が多いことから、こどもに視点を置いて企画することも継続していきたい。

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 企画展

①「キモかわすごい！海の骨なしどうぶつの世界」

期 間 令和7年4月5日（土）～ 6月22日（日）

会 場 仙台市科学館 3階展示室内 企画展コーナー

目 的 「動物」をイメージすると私たちヒトを含めた「脊椎動物」を思い浮かべることが多いが、動物全体を見渡してみると、脊椎動物はそこごく一部であり、ほとんどが骨をもたない「無脊椎動物」である。特に、海の中には多種多様な無脊椎動物が生息し、独特の世界をつくり上げている。普段は注目されにくい無脊椎動物にスポットを当てた企画展を開催することでその多様性を紹介するとともに、環境保全の普及啓発を目的とする。

内 容 国立科学博物館より、下記の巡回展示物を借用し、展示した。

【展示資料】

「1章 海にはふしぎなどうぶつがいっぱい！」

- ・「骨なしどうぶつ」の正体（解説パネル）

「2章 海の骨なしどうぶつのキモかわすごい！」

- ・大人になると大変身！（解説パネル）
- ・体がちくわ？もちきんちゃく？（解説パネル）
- ・食べたものが武器になる！？（解説パネル）
- ・サンゴの共生マンションへようこそ！（解説パネル）
- ・カラフルなウミウシのナゾ（解説パネル・標本）
- ・クラゲは花？（解説パネル・標本）
- ・海の掃除屋スカベンジャー参上！（解説パネル・標本・映像）
- ・ちょこちょこ じりじり ぴくぴく ふわふわ ぷかぷか（解説パネル・映像）

「3章 海の骨なしどうぶつとわたしたち」

- ・暮らしに役立つ海の骨なしどうぶつたち（解説パネル・標本）
- ・やっかいな海の骨なしどうぶつたち（解説パネル・標本）

「まとめ キモかわな海の骨なし動物から学べること」（解説パネル）

「謝辞 海の動物の研究者からのメッセージ」（解説パネル）



IV 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 企画展

② 「自由研究How to 展」

期 間 令和7年6月21日(土)～令和7年8月24日(日)

会 場 仙台市科学館 4階展示室内

目 的 小・中学生を主な対象とし、自由研究・標本作り・科学工作の進め方やモデルとなる作品を紹介することによって科学技術の普及・啓発および学校教育支援を行う。

内 容 自由研究・標本作り・科学工作の進め方、使用する道具、注意する点などを実物やパネルなどを通して紹介や、過去の仙台市児童生徒理科作品展で市長賞や教育長賞をとった優秀な科学工作を映像にて紹介した。



研究の進め方



岩石・昆虫標本製作道具



植物採集と標本の作り方



科学工作の進め方

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 企画展

③ 「海藻おしば ようこそ海の森へ」

期 間 令和7年6月28日（土）～8月24日（日）

会 場 仙台市科学館 3階展示室内 企画展コーナー

目 的 特別展の関連企画として海藻が地球環境で果たす役割の解説パネルと海藻おしば標本の展示をする。また、特別展関連映像を流すシアターとする。これらの体験を通して来館者に海への関心を持ってもらう。

内 容 【展示物】

- (1) ようこそ海の森へ展示パネル A2 サイズ 7枚
- (2) ようこそ海の森へ展示パネル A1 サイズ 1枚
- (3) 海藻おしば標本 A3 サイズ 14枚
- (4) 海藻アクリル封入標本 14個



Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 企画展

④ 「昆虫標本展 ～昆虫のくらしを探る 高橋雄一コレクション～」

期 間 令和7年11月29日(土)～令和8年1月25日(日)

会 場 仙台市科学館3階 エントランスホール

目 的 高橋雄一氏の昆虫標本は、詳しい解説と共にまとめられている。解説と標本を合わせて展示することで、市民の昆虫に対する興味・関心を高めることを目的とする。

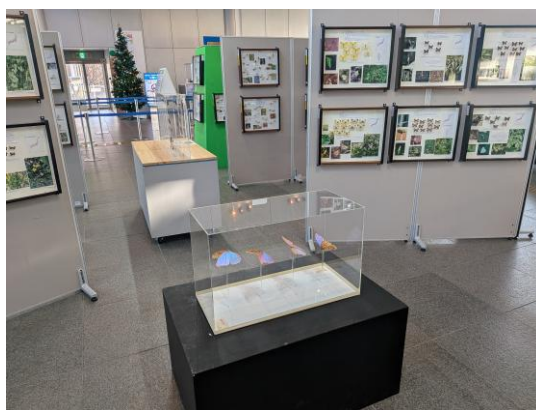
内 容 宮城のトンボ、蝶を中心として宮城に生息する多くの種類の昆虫のくらしの様子をまとめた標本をパネルとともに展示する。

標本リスト

高橋標本(147箱)

「宮城のトンボ1～16」・・・16箱, 「日本のトンボ1～27」・・・27箱,
「蝶のくらしを探る1～53」・・・53箱, 「宮城の甲虫1～23」・・・23箱,
「宮城のカメムシ目1～9」・・・9箱, 「宮城の水生昆虫1～5」・・・5箱,
「宮城のバッタ目1～4」・・・4箱, 「宮城のアミメカゲロウ目1～2」・・・2箱,
「宮城のトビケラ1」・・・1箱, 「宮城のハチ目1～6」・・・6箱,
「宮城のハエ目1」・・・1箱 合計147箱

裏表標本, 飛翔標本2つ, 昆虫頭部模型も合わせて展示する。



Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 企画展

⑤ 「地球飯～Tasty, Healthy, Earth-friendly」

期 間 令和7年8月30日（土）～10月19日（日）

会 場 仙台市科学館 3階展示室内 企画展コーナー



目 的 「食」は、気候変動や生物多様性の損失といった環境問題だけでなく、飢餓や飽食など社会的格差も含む複雑な問題を引き起こしている。展示内容を通して、地球にも人にも健康的で持続可能な食とは何かを考えるきっかけをあたえる。

内 容 【展示物】

(1) パネル展示 (A1) 6枚

- ①タイトル
- ②おいしいごはんが届くまでの20の問題
- ③おいしさだけじゃない!? 食材の見かた
- ④もったいないだけじゃない!? 食品ロス
- ⑤地球飯をつくる! えらぶ! たべる!



(2) レシピパネル (A1) 2枚

- ①コウケンテツさんの地球飯「とうふ焼肉丼と彩レンジナムル」
- ②長谷川あかりさんの地球飯「カブまるごとパスタ」

(3) ゴミ箱展示 (食材ロスパネル関連展示物) 4つ

蓋を開けると、食品工場・レストラン・スーパー・家庭での廃棄物量がわかる。

(4) 皿展示 (食材の見かたパネル関連展示物) 4セット 「環境への影響、人体への影響」を食材ごと可視化できる (ハンズオン展示)



(5) レシピ紹介コーナー



Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 企画展

⑥ 「科学館学習展～74年続く中学生向け学習プログラム～」

期 間 令和7年10月25日(土)～

令和8年1月12日(月・祝)

会 場 仙台市科学館 3階展示室内 企画展コーナー

目 的 仙台市科学館の原点であり、開始から74年の歴史がある中学生向けの「科学館学習」の歴史や実験装置などを展示し、その学習プログラムを紹介する。会期中に科学館学習を体験できる関連イベントを実施する。

内 容 【展示物】

(1) パネル展示 (A2) 22枚

- ①仙台市科学館の「科学館学習」とは
- ②「科学館学習」のはじまり
- ③サイエンスルームから仙台市科学館へ
- ④サイエンスルームでの実験タイトル
- ⑤令和7年度の実験紹介(物理・生物・地学・化学)
- ⑥過去の実験紹介(物理・生物・地学・化学)
- ⑦わたしが中学生のときは何年?
- ⑧タブレット端末を活用した展示学習
- ⑨これからの「科学館学習」と体験会のご案内

(2) 実験のしおり 3種類

- ①サイエンスルームでの第1回理科実験のしおり(昭和27年度)
- ②仙台市科学館開館1年目の実験のしおり(昭和43年度)
- ③台原森林公園に移転1年目の実験のしおり(平成2年度)

(3) 実験器具の展示(物理・生物・地学・化学実験別)

- ①物理 送電装置・発電装置・変圧装置・電流計・交流発電機など
- ②生物 メダカ用水流発生装置・ワラジムシの迷路など
- ③地学 津波実験装置・液状化実験装置・断層モデル実験装置など
- ④化学 水の電気分解装置・固体高分子型燃料電池実験セット・電池カー能力測定実験装置など

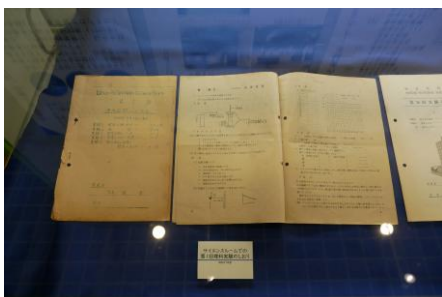
関連イベント

(1) 科学館学習実験体験会

- ①化学「化学変化と電池の変遷」 11月30日(日) 10:00～11:30 11名参加
- ②物理「光の進み方—ものの見え方の不思議—」 12月7日(日) 10:00～11:30 19名参加
- ③地学「仙台の大地の成り立ち」 12月14日(日) 10:00～11:30 13名参加
- ④生物「キノコの世界」 12月21日(日) 10:00～11:30 15名参加

(2) 科学館学習展示学習体験会

11月24日(日) 10:00～11:30, 13:00～14:30 計19名参加



Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 企画展

⑦ 「知って備える自然災害」

期 間 令和8年1月17日（土）～3月29日（日）

会 場 仙台市科学館 3階展示室内 企画展コーナー

目 的 令和7年に3階常設展示室がリニューアルし、「自然と災害」エリアを新設した。自然と災害エリアの展示物と関連し、自然事象と災害の紹介と防災、復興への取り組みについて紹介する企画展を開催した。

協 力 仙台市減災推進課 仙台市防災安全協会 仙台市教育センター

内 容 【展示物】

(1) 地震について

①展示パネル ※パネルは仙台市防災安全協会より借用 ※（ ）は科学館で製作

1. 東北地方太平洋沖地震 2. 岩手・宮城内陸地震 (3. 液状化現象)

②ハンズオン・関連展示物

1. 断層モデルの展示 2. 液状化現象実験ボトル

(2) 津波について

①展示パネル

1. 東北地方太平洋沖地震 (2. 津波とは) (3. 津波堆積物)

②ハンズオン・関連展示物

1. 津波の速度くらべ 2. 津波堆積物のはぎ取り標本

(3) 台風について

①展示パネル

1. 台風19号の概要 2. 台風19号の被害状況 (3. 台風のしくみ)

(4) 豪雨・水害について

①展示パネル

1. 都市型水害の危険 2. 水害発生メカニズム 3. 内水被害 4. 土砂災害の危険



(5) 防災・減災について

①展示パネル

1. 緊急地震速報 2. 防災備蓄パネル (3. 建物の耐震について)

②ハンズオン・関連展示物

1. 家庭における地震対策の展示 (1週間分の備蓄食料)



(6) 仙台市教育委員会の取り組み

①展示パネル

1. 復興プロジェクト解説パネル (B1)

②ハンズオン・関連展示

- ・ 防災副読本 (3冊) ・ 復興の織り鶴見本 ・ 映像展示 (折り鶴製作・復興ソング)



※それぞれのコーナーで関連する常設展示物を紹介した。

(7) その他

- ①関連企画「せんだい災害 VR」の実施 ※仙台市防災安全協会

2/21 (日) 地震編 3/8 (日) 津波編

②放映映像

おりはらアドバイザーの3分間防災ちゃんねる (5分×3本, DVD)

ミュージアムレスキュー関連映像 など

③防災・減災に関するパンフレットやチラシの配架

